

インバウンドの「変化の兆し」をいち早く 都道府県別訪日外客数と訪問率

月次指標の早期推計：11月レポート

稲田義久 (APIR 研究統括兼数量経済分析センター長)
松林洋一 (APIR 上席研究員)
野村亮輔 (研究推進部)
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: nomura-r@apir.or.jp

ポイント

● 12月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

▶ JNTO 訪日外客統計によれば(図1及び表2)、**11月の訪日外客総数(推計値)は93万4,500人**と前月(49万8,600人)から大幅増加し、100万人に迫る水準となった。2019年同月比では-61.7%とコロナ禍前の4割まで回復。また、同月の日本人出国者数は37万9,200人と前月(34万9,557人)から増加し、4カ月連続で30万人超となった(2019年同月比-76.9%)。

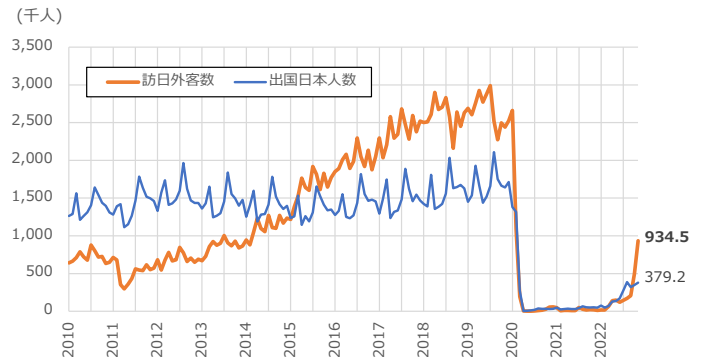
▶ 訪日外客数のトップ5を国・地域別にみると(図2及び表2)、**韓国は31万5,400人とトップ**であり、**2020年1月(31万6,812人)以来、単月で30万超の水準**となった(なお、2019年の月平均では46万人)。次いで台湾が9万9,500人、米国が8万4,300人、香港が8万3,000人、タイが5万2,100人と続く。上記5カ国・地域の19年同月比をみれば、米国(同-43.4%)、香港(同-58.4%)、タイ(同-62.9%)、台湾(同-74.6%)はいずれも減少幅が前月から縮小しており、着実に回復が進んでいる。なお、韓国が同+53.8%と前月(同-37.7%)からプラスに転じているが、これは19年後半の日韓関係悪化による訪日韓国人客の急減少が影響している。

▶ **目的別訪日外客総数(暫定値)をみれば、9月は20万6,641人**となった(2019年同月比-90.9%)(図3及び表3)。うち、**観光客**は4万2,108人(同-97.8%)、**商用客**は5万3,265人(同-65.4%)、**その他客**は11万1,268人(同-45.9%)であった。**観光客**は前月(3万1,441人)から増加し、**東京オリンピックが開催された2021年7月(4万2,621人)以来の水準**となった。

▶ 7-9月期の目的別訪日外客総数をみれば、**観光客10万3,864人**(2019年同期比-98.5%)、**商用客13万1,230人**(同-68.8%)、**その他客28万6,027人**(同-46.1%)となった。観光客は添乗員なしの外国人観光客向けのパッケージツアー受入れ再開もあり、4-6月期(2万5,879人)から大幅増加した。

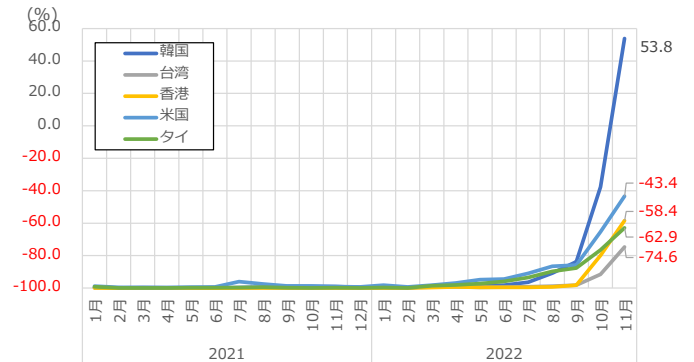
▶ 12月以降もインバウンド需要は回復傾向が続くと予想されるが、依然として**訪日中国人客の回復が課題**である。12月に入り、**中国政府**はゼロコロナ政策の**大幅な緩和**を発表し、これまで制限されていた中国人の海外旅行についても認可した。一方で**日本政府**は中国国内の感染拡大を受け、12月30日より中国からの入国者に対して入国時のCOVID-19検査を義務付け、陽性の場合は7日間の隔離措置をとる**水際対策強化**を発表した。このため、訪日中国人客の戻りについては依然不透明性が高い。

図1 訪日外客数及び出国日本人数の推移



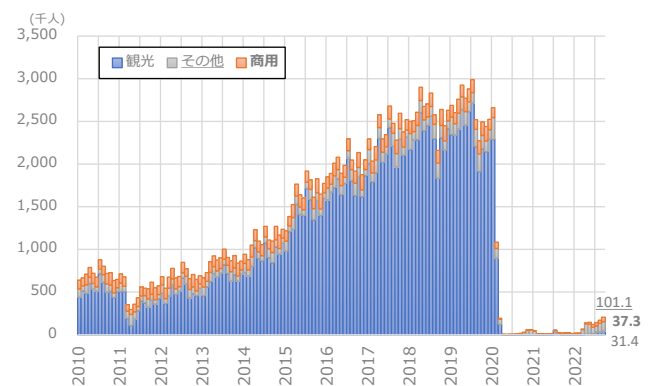
出所: 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成
注) 2021年まで確定値、22年1-9月は暫定値、22年10-11月は推計値

図2 上位5カ国・地域2019年比の推移



出所: 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成。

図3 目的別訪日外客数推移



出所: 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成
注) 「観光客」とは、短期滞在の入国者から「商用客」を引いた入国外国人で、親族友人訪問を含んでいる。「その他客」とは、観光、商用目的を除く入国外国人で、留学、研修、外交・公用などが含まれる。

*本レポートで使用している観光庁「訪日外国人消費動向調査」の統計調査が現在行われていないため、2020年11月公表分レポートより内容を一部変更していることにご留意頂きたい。

トピックス 1

● 11月関西の財貨・サービス貿易及び10月のサービス産業動向

▶ 関西 11月の輸出は前年同月比+19.0%と21カ月連続で増加し、前月(同+15.6%)から加速した(図4)。主に米国向けの建設用・鉱山用機械や医薬品の輸出が好調であった。また、輸入は同+23.9%と22カ月連続の増加だが、エネルギー価格の落ち着きや鉱工業生産の停滞により前月(同+48.6%)から減速。輸入の伸びが前月から減速し、輸出が加速した結果、関西の貿易収支は+212億円となった。3カ月連続の黒字だが、黒字幅は同-73.6%と縮小した(前月：同-85.0%)。

▶ 対中貿易動向をみると(図5)、関西11月の対中輸出は前年同月比+5.5%と7カ月連続で増加し、前月(同+0.7%)から加速した。輸出増に寄与したのは映像機器や無機化合物等であった。中国経済の弱さを受け、輸出の戻りは遅い。また、対中輸入は同+20.3%と7カ月連続の増加だが、前月(同+38.4%)から減速。うち、輸入増に寄与したのは無機化合物やがん具及び遊戯用具等であった。

▶ 11月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は24万7,090人と前月(11万6,658人)から倍増し、コロナ禍の影響が出始めた2020年2月(22万8,987人)を上回った。2019年同月比では-63.1%と前月(同-82.1%)から大幅縮小。関空への外国人入国者数も着実に回復が進んでいる。空港別に訪日外客数の戻りをみると、羽田(同-44.7%)や成田(同-52.7%)はコロナ禍前の5割程度回復しているが、関空は4割程度の回復にとどまっている(図6参照)。

▶ 10月のサービス業の活動は観光需要の増加で対面型サービス業を中心に持ち直している。サービス業の生産活動を示す第3次産業活動指数(季節調整済み：2015年平均=100)をみれば(図7)、10月は99.9で前月比+0.2%小幅上昇し、2カ月ぶりのプラス(前月：同-0.2%)。対面型サービス業指数*は91.1と同+0.5%上昇し、2カ月ぶりのプラス(前月：同-1.4%)。うち、飲食店、飲食サービス業が同+5.5%と2カ月ぶりに上昇した(前月：同-3.3%)。COVID-19の感染拡大が落ち着いていたことが好影響した。

▶ 観光関連指数**(2015年平均=100)は、84.4と前月比+2.5%上昇し、3カ月連続のプラス(前月：同+1.6%)(図7)。全国旅行支援事業の開始や水際対策の緩和もあり、旅行業(同+28.3%、2カ月連続)や宿泊業(同+1.7%、3カ月連続)が上昇した。11月以降も国内観光需要並びにインバウンド需要の増加が見込まれるため、観光関連指数の上昇が期待されよう。

*対面型サービス業は、運輸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、その他の生活関連サービス業及び娯楽業を指す。

**観光関連指数は第3次産業活動指数のうち、観光庁「旅行・観光サテライト勘定」の分類に対応する、鉄道旅客運送業、道路旅客運送業、水運旅客運送業、航空旅客運送業、旅客運送業、その他のレンタル、自動車賃貸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、旅行業、映画館、劇場・興行団の各指数の加重平均。

図4 関西 対世界貿易の推移

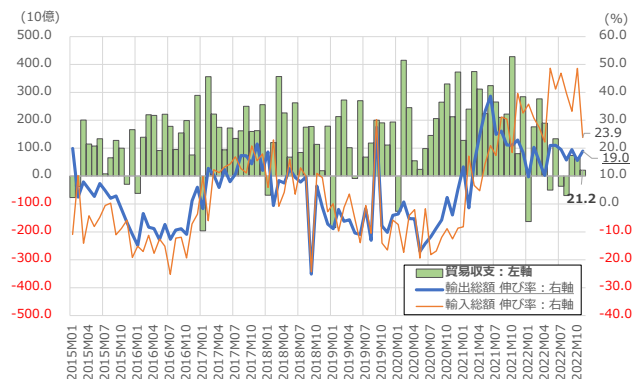
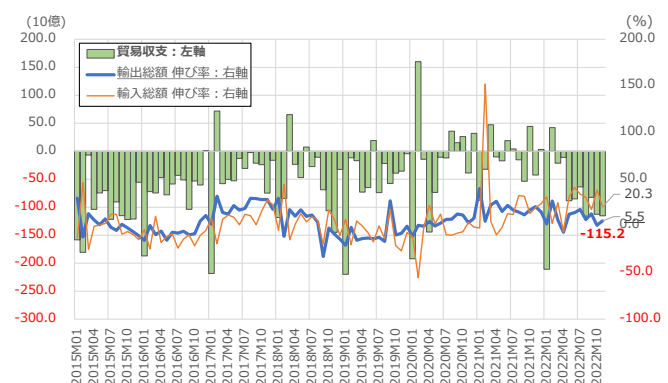
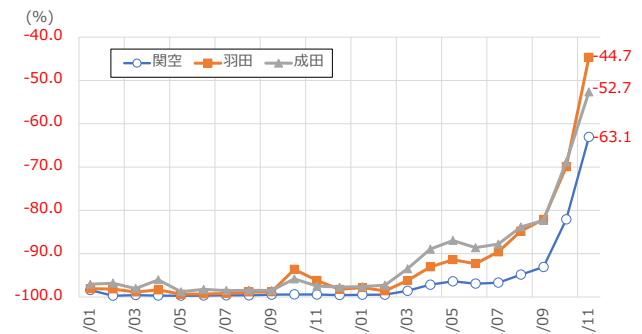


図5 関西 対中貿易の推移



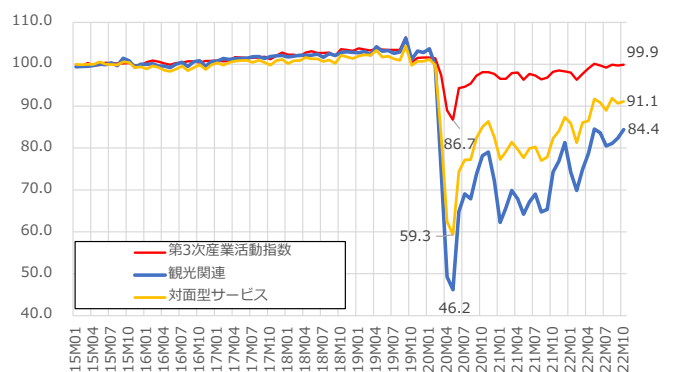
出所：「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」より筆者作成

図6 空港別 訪日外客数の伸び率推移：2019年同月比



出所：出入国管理統計より筆者作成。2022年11月値は速報値

図7 観光関連 対面型サービス 第3次産業：2015年=100



出所：経済産業省「第3次産業活動指数」より筆者作成

トピックス 2

●9月延べ宿泊者数の動向：関西2府8県

▶観光庁によれば、9月の関西2府8県の延べ宿泊者数(全体)は7,436.5千人泊となった(表1)。2019年同月比では-24.2%となり、減少幅は前月(同-31.5%)から縮小。COVID-19感染拡大が落ち着き、外出機会が増加したことが影響した。

▶日本人延べ宿泊者数は7,278.4千人泊であった。2019年同月比では-0.8%と減少幅は前月(同-13.0%)から大幅縮小し、コロナ禍前の水準を回復しつつある(表1及び図8)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府が2,441.6千人泊、京都府が1,882.1千人泊、兵庫県が1,024.3千人泊、三重県が574.0千人泊、和歌山県が344.1千人泊、滋賀県が330.5千人泊、福井県が226.6千人泊、奈良県が168.8千人泊、鳥取県が159.9千人泊、徳島県が126.6千人泊であった。伸びは、京都府が+22.7%と4カ月連続のプラス、また徳島県を除いた各府県で減少幅が前月から縮小した。

▶外国人延べ宿泊者数は158.0千人泊であった。2019年同月比では-93.6%と減少幅は3カ月連続で縮小(前月：同-95.7%)(表1及び図9)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府が83.0千人泊、京都府が53.0千人泊、兵庫県が6.8千人泊、和歌山県が4.6千人泊、三重県が2.9千人泊、滋賀県が2.9千人泊、福井県が1.7千人泊、奈良県が1.4千人泊、徳島県が1.0千人泊、鳥取県が0.9千人泊であった。これまで低水準が続いていた外国人宿泊者数は水際対策の緩和が進むにつれ、徐々に持ち直しの動きがみられる。

▶関西2府8県延べ宿泊者を居住地別で見ると(図10)、府県内の延べ宿泊者数は1,681.7千人泊となった(2019年同月比+35.7%)。伸びは前月(同+14.1%)から拡大し12カ月連続のプラス。また、2府8県以外からの宿泊者は5,550.5千人泊であった(同-30.6%)。伸びは前月(同-36.6%)から縮小した。

▶10月の全国延べ宿泊者数(全体、1次速報ベース)は44,259千人泊、2019年同月比-11.6%と減少幅は前月(同-19.2%)から縮小した。うち、日本人宿泊者は42,095千人泊(同+5.8%)、外国人宿泊者は2,163.8千人泊(同-78.9%)となった。日本人宿泊者数はコロナ禍前の水準を回復し、外国人宿泊者数は水際対策の大幅緩和もあり、減少幅は前月(同-90.1%)から大幅に縮小した。

図8 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

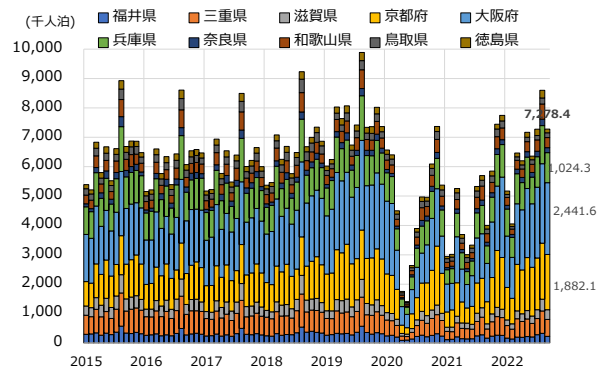


図9 府県別外国人延べ宿泊者数の推移

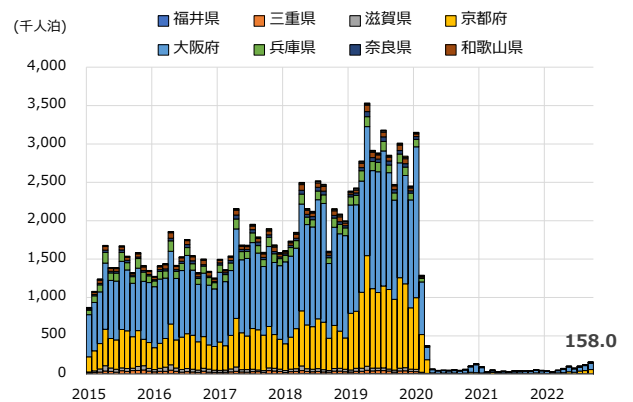
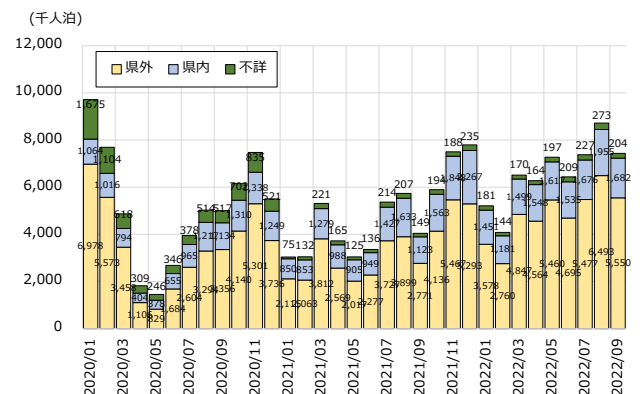


図10 関西 居住地別延べ宿泊者比率の推移



注) 県外の宿泊者には外国人宿泊者も含まれる。

表1 関西 延べ宿泊者数伸び率：9月

福井県	228.3	35.7	-37.4	226.6	35.4	-36.8	1.7	97.6	-74.1
三重県	576.9	85.0	-7.3	574.0	84.8	-4.5	2.9	119.5	-86.2
滋賀県	333.4	90.8	-18.7	330.5	90.0	-13.7	2.9	256.3	-89.4
京都府	1,935.0	155.7	-21.2	1,882.1	150.5	22.7	53.0	876.9	-94.3
大阪府	2,524.6	90.1	-33.0	2,441.6	87.3	-1.4	83.0	231.7	-93.6
兵庫県	1,031.2	70.5	-8.0	1,024.3	70.6	-0.2	6.8	62.1	-92.8
奈良県	170.2	36.9	-22.2	168.8	36.3	-4.7	1.4	184.0	-96.6
和歌山県	348.7	20.4	-16.3	344.1	19.1	-6.1	4.6	610.9	-90.9
鳥取県	160.8	-0.2	-29.9	159.9	-0.3	-27.1	0.9	26.8	-91.0
徳島県	127.5	3.1	-38.3	126.6	2.6	-35.8	1.0	174.3	-90.0
関西2府4県	6,343.0	93.5	-24.4	6,191.4	91.0	3.8	151.6	314.4	-93.8
関西2府8県	7,436.5	83.9	-24.2	7,278.4	81.8	-0.8	158.0	296.9	-93.6
全国	39,415.8	73.1	-19.2	38,600.1	71.8	-4.7	815.8	179.0	-90.1

出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」より筆者作成(図8~10及び表1)

表2 2022年11月訪日外客数 (JNTO 推計値) (対2019年比)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2019年	2022年	伸率(%)	2019年	2022年	伸率(%)
	11月	11月		1-11月	1-11月	
総数	2,441,274	934,500	-61.7	29,355,662	2,461,900	-91.6
総数(韓国・その他除く)	2,136,550	567,900	-73.4	22,895,352	1,618,800	-92.9
韓国	205,042	315,400	53.8	5,336,638	556,500	-89.6
中国	750,951	21,000	-97.2	8,884,160	155,500	-98.2
台湾	392,102	99,500	-74.6	4,542,333	160,900	-96.5
香港	199,702	83,000	-58.4	2,041,150	127,900	-93.7
タイ	140,265	52,100	-62.9	1,154,041	115,000	-90.0
シンガポール	65,295	40,300	-38.3	391,876	64,900	-83.4
マレーシア	64,987	17,500	-73.1	423,342	37,900	-91.0
インドネシア	37,213	17,000	-54.3	353,576	85,400	-75.8
フィリピン	64,763	21,700	-66.5	531,572	86,900	-83.7
ベトナム	41,892	33,600	-19.8	464,445	255,900	-44.9
インド	14,863	8,400	-43.5	164,157	46,900	-71.4
豪州	48,327	20,200	-58.2	549,118	46,800	-91.5
米国	148,993	84,300	-43.4	1,579,363	214,000	-86.5
カナダ	33,316	15,900	-52.3	340,130	35,300	-89.6
メキシコ	6,494	2,000	-69.2	65,246	6,700	-89.7
英国	37,709	13,600	-63.9	396,529	42,200	-89.4
フランス	24,290	10,800	-55.5	316,072	42,000	-86.7
ドイツ	19,525	9,700	-50.3	222,905	38,000	-83.0
イタリア	12,350	5,200	-57.9	151,573	18,700	-87.7
ロシア	10,535	3,600	-65.8	122,948	12,400	-89.9
スペイン	13,142	2,000	-84.8	111,210	8,800	-92.1
中東地域	9,836	6,500	-33.9	89,606	16,700	-81.4
その他	99,682	51,200	-48.6	1,123,672	286,600	-74.5

表3 2022年9月目的別訪日外客数 (JNTO 暫定値) (対2019年比)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2019年	2022年	伸率(%)	2019年	2022年	伸率(%)	2019年	2022年	伸率(%)	2019年	2022年	伸率(%)
	9月	9月		9月	9月		9月	9月		9月		
総数	2,272,883	206,641	-90.9	1,913,105	42,108	-97.8	154,051	53,265	-65.4	205,727	111,268	-45.9
韓国	201,252	32,764	-83.7	152,617	10,139	-93.4	21,633	9,691	-55.2	27,002	12,934	-52.1
中国	819,054	17,590	-97.9	705,154	1,924	-99.7	33,159	2,875	-91.3	80,741	12,791	-84.2
台湾	376,186	6,756	-98.2	354,624	769	-99.8	10,766	2,384	-77.9	10,796	3,603	-66.6
香港	155,927	2,824	-98.2	150,763	958	-99.4	3,395	1,039	-69.4	1,769	827	-53.3
タイ	62,057	7,622	-87.7	54,621	2,808	-94.9	3,310	2,027	-38.8	4,126	2,787	-32.5
シンガポール	29,147	2,887	-90.1	25,124	831	-96.7	3,435	1,703	-50.4	588	353	-40.0
マレーシア	28,778	2,967	-89.7	23,871	539	-97.7	2,525	1,109	-56.1	2,382	1,319	-44.6
インドネシア	25,021	9,186	-63.3	17,652	1,672	-90.5	2,475	1,108	-55.2	4,894	6,406	30.9
フィリピン	37,758	8,479	-77.5	30,576	2,880	-90.6	2,565	1,103	-57.0	4,617	4,496	-2.6
ベトナム	38,325	30,871	-19.4	9,383	1,183	-87.4	3,466	1,458	-57.9	25,476	28,230	10.8
インド	15,895	5,223	-67.1	6,269	511	-91.8	6,054	1,873	-69.1	3,572	2,839	-20.5
豪州	60,498	4,689	-92.2	55,570	2,086	-96.2	3,593	1,724	-52.0	1,335	879	-34.2
米国	127,190	17,965	-85.9	100,459	5,697	-94.3	19,973	7,538	-62.3	6,758	4,730	-30.0
カナダ	28,525	2,396	-91.6	25,379	793	-96.9	1,934	833	-56.9	1,212	770	-36.5
メキシコ	6,282	771	-87.7	5,523	203	-96.3	416	304	-26.9	343	264	-23.0
英国	49,580	4,494	-90.9	41,325	737	-98.2	5,845	1,835	-68.6	2,410	1,922	-20.2
フランス	26,530	5,310	-80.0	20,157	1,237	-93.9	3,725	1,838	-50.7	2,648	2,235	-15.6
ドイツ	22,768	5,300	-76.7	16,328	817	-95.0	4,537	2,598	-42.7	1,903	1,885	-0.9
イタリア	13,354	2,647	-80.2	10,551	375	-96.4	1,784	1,164	-34.8	1,019	1,108	8.7
ロシア	10,454	1,207	-88.5	7,261	253	-96.5	2,085	387	-81.4	1,108	567	-48.8
スペイン	11,472	1,952	-83.0	9,942	307	-96.9	808	584	-27.7	722	1,061	47.0
中東地域	8,678	1,832	-78.9	6,863	458	-93.3	1,071	669	-37.5	744	705	-5.2
その他	118,152	30,909	-99.7	83,093	4,931	-99.9	15,497	7,421	-99.5	19,562	18,557	-99.1

注) 目的別訪日外客数の定義については、図3注参照。
出所: 日本政府観光局(JNTO)、2022年12月21日付より筆者加工